

教育データの標準化に関する ICT CONNECT 21の活動

2020.11.24

ICT CONNECT 21 技術標準WG

石坂芳実

ICT CONNECT 21の目的

情報通信技術を活用して教育をより良くして行こうという意思を持つさまざまなステークホルダーが集まるオープンな場を提供するとともに、格差なく誰でもいつでもどこでも生涯を通じて学べる学習環境作りに取り組み、教育の情報化の一層の進展に寄与し、社会の発展に貢献することを目的とする。

つなげる、CONNECTする

官と民、学校や教育委員会と企業、さまざまな団体

ICT CONNECT 21の事業

- (1) 調査研究
- (2) 技術標準の策定と普及
- (3) 意義の一般への訴求と利活用の推進
- (4) 政策提言
- (5) 国や地方公共団体が行う事業との連携
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

GIGAスクール構想推進委員会

GIGA HUB Web <https://giga.ictconnect21.jp/>

ワーキンググループ活動

技術標準ワーキンググループ

ICT利用を普及させるため、利便性を高め、高付加価値、低負担を実現するための技術の向上と標準化を図る。

座長：田村恭久（上智大学教授）

副座長：藤村裕一（鳴門教育大学准教授） / 栗山健（JMOC事務局長）

普及推進ワーキンググループ

これからの学びにおける ICT利用への正しい理解と世論の喚起を継続的に行う。ICTの活用によって新たな学びの可能性を生み出すエコシステムの具体化を図る。

座長：岩本隆（慶應義塾大学特任教授）

副座長：中西康浩（株式会社電通部長）

国際連携SWG

ISO/IEC JTC 1/SC 36, IMS GLC, W3Cなど、教育に関する国際的な標準化団体の活動に参加されている方たちを中心に組織
国内外の技術動向を把握

日本で教育の情報化を進めて行くためには、技術的な連携は国際標準規格に則り、国の制度や文化に依存する部分は国内で標準化を行なう必要があると議論

教育データの標準化は、国を中心に国内で検討するべきと提案

ラーニングリソースメタデータSIG

昨年、各国の教育データに関する標準化の動向を調査
US, UK, オーストラリアなど

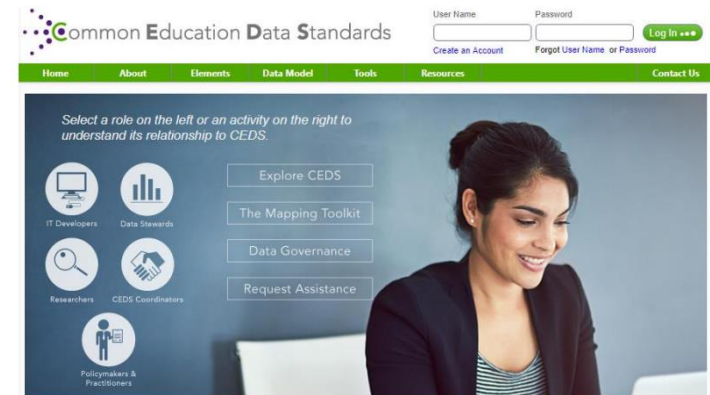
教育データ標準に関する 調査と検討

ICT CONNECT 21 技術標準WG

国際連携SWG, ラーニングリソースメタデータSIG

2019年4月11日

CEDS: Common Education Data Standards



- P-20W（就学前教育から高等教育・社会人教育までの範囲に相当）の教育データを国家レベルで標準化する取り組み
- 州教育機関、地方教育機関、高等教育機関、教育省、保健福祉省、労働省、標準化団体など、1000を超えるステークホルダーが参加

校務系-学習系情報連携SWG

校務支援システムメーカー、学習系の教材やシステムの提供メーカー
が集まり、情報連携の方法を検討

共通の拠り所となる、**児童生徒や学校のID体系などを検討**

英語圏を中心に利用が広がっている生徒情報システム (SIS) と学習
マネジメントシステム (LMS) 間の情報連携の規格であるIMS
OneRosterや、技術的に担保された証明書の管理などで注目を集め
ている非中央集権型ID (**DID** : Decentralized Identifier) の動向な
ども調査

スタディ・ログ推進SWG

スタディ・ログの活用により、学習者にとっての最適な学びが実現する社会の構築を目指し、学習者や指導者が**スタディ・ログを活用する際のメリットや課題を整理**

学習や社会におけるPDS (パーソナル・データ・ストア) 活用のメリットや、その土台となる考え方を整理し、
公教育・私教育問わず、
学習に必要なデータを定義した上で、
連携の方策を検討

学習eポータルSWG

日本の初等中等教育の学校においてICTと教育データの利活用のハブとして機能する、LMSに相当する**学習eポータル**の仕様を検討

